参考資料
分類名〔経営〕

県版ＧＡＰ（生産者の自主的取り組み）に対する消費者評価

農業・園芸総合研究所

１　取り上げた理由

消費者の食の安全・安心への関心が高まる中，農業生産現場においてはＧＡＰ（Good Agricul-tural Practice，農業生産工程管理）に取り組み，安全な農産物生産のための生産管理を実施することが求められている。消費者がＧＡＰに取り組んで生産された農産物を相対的に高く評価することは明らかとなったが，県が推進している生産者が自主的に取り組むＧＡＰ（第三者認証なし，以下県版ＧＡＰ）への消費者評価は明らかになっていない。そこで，消費者モニターへアンケート調査を実施し，県版ＧＡＰに対する消費者評価を明らかにしたので参考資料とする。

２　参考資料

１）県版ＧＡＰ農産物は通常農産物より相対的に高い消費者評価が得られる。

通常（ＧＡＰへの取り組みなし），県版ＧＡＰ，第三者認証ＧＡＰ（以下認証ＧＡＰ）農産物への評価は，高い順に，認証ＧＡＰ＞県版ＧＡＰ＞通常となった。評価項目（農薬残留，病原微生物汚染等の危険性が低くなること等）による差は認められなかった。また，首都圏モニターは仙台モニターと比較すると通常農産物への評価が低い傾向にあった（表１）。以上から，県版ＧＡＰのような生産者の自主的取り組みでも，認証ＧＡＰよりは低いものの一定の消費者評価が得られる。

２）県版ＧＡＰ農産物の購入意向は通常農産物よりも高い。

ＧＡＰ農産物を買いたいかという問いに「そう思う」または「どちらかというとそう思う」と答えた割合は，県版ＧＡＰの場合，同価格で約８割，通常の１割高で６割弱，通常の２割高で３割弱となった。認証ＧＡＰ農産物では県版ＧＡＰ農産物より購入意向が高くなる傾向があった（図１）。このことから，消費者の県版ＧＡＰ農産物の購入意向は通常農産物より高まる。認証ＧＡＰ農産物の購入意向は県版ＧＡＰよりさらに高まるが，導入にあたっては認証取得にかかるコストも考慮しながら検討する必要がある。

３　利活用の留意点

１）本調査は農園研の消費者登録モニターへの郵送アンケート調査により実施した。調査時期は平成20年11月，配布数及び回収率は仙台市在住モニター(配布数：459名，回収数：303名（回収率66%）)，首都圏在住モニター（配布数：250名，回収数：174名（回収率70%））である。

２）ＧＡＰに取り組んでいる，あるいは第三者認証を有することが購入時にわかる農産物は調査時点でほとんど流通していないが，そのようなものがあるという仮定のもと評価してもらった。また，生食野菜を購入する場合を想定して評価してもらった。

３）ＧＡＰ全般に対する消費者評価については，「ＧＡＰに対する消費者評価」として普及に移す技術 第83号に参考資料として掲載されている。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所情報経営部　電話０２２-３８３-８１２０）

４　背景となった主要な試験研究

１）研究課題名及び研究期間　宮城県版野菜ＧＡＰの確立（平成18～20年度）

２）参考データ

表１　ＧＡＰへの取り組み別農産物への評価（平均）

		評価項目			
		農薬残留の危険性が低い	病原微生物の汚染の危険性が低い	異物が入る危険性が低い	環境にやさしい栽培
仙台	通常	3.29[a]	3.31[a]	3.28[a]	3.34[a]
	県版	3.69[b]	3.66[b]	3.61[b]	3.70[b]
	認証	4.26[c]	4.26[c]	4.18[c]	4.19[c]
首都圏	通常	3.07[a]	3.11[a]	3.13[a]	3.12[a]
	県版	3.67[b]	3.67[b]	3.62[b]	3.60[b]
	認証	4.34[c]	4.32[c]	4.25[c]	4.23[c]

注１）評価は，５：そう思う，４：どちらかというとそう思う，３：どちらとも言えない，２：どちらかというとそう思わない，１：そう思わない　として５段階評価してもらった結果を平均したもの。
注２）項目間で多重比較の結果，異符号間に有意水準１％で差がある。
注３）通常については，「異物が入る危険性が低い」意外の評価項目において仙台，首都圏モニター間で有意水準５％で差がある。

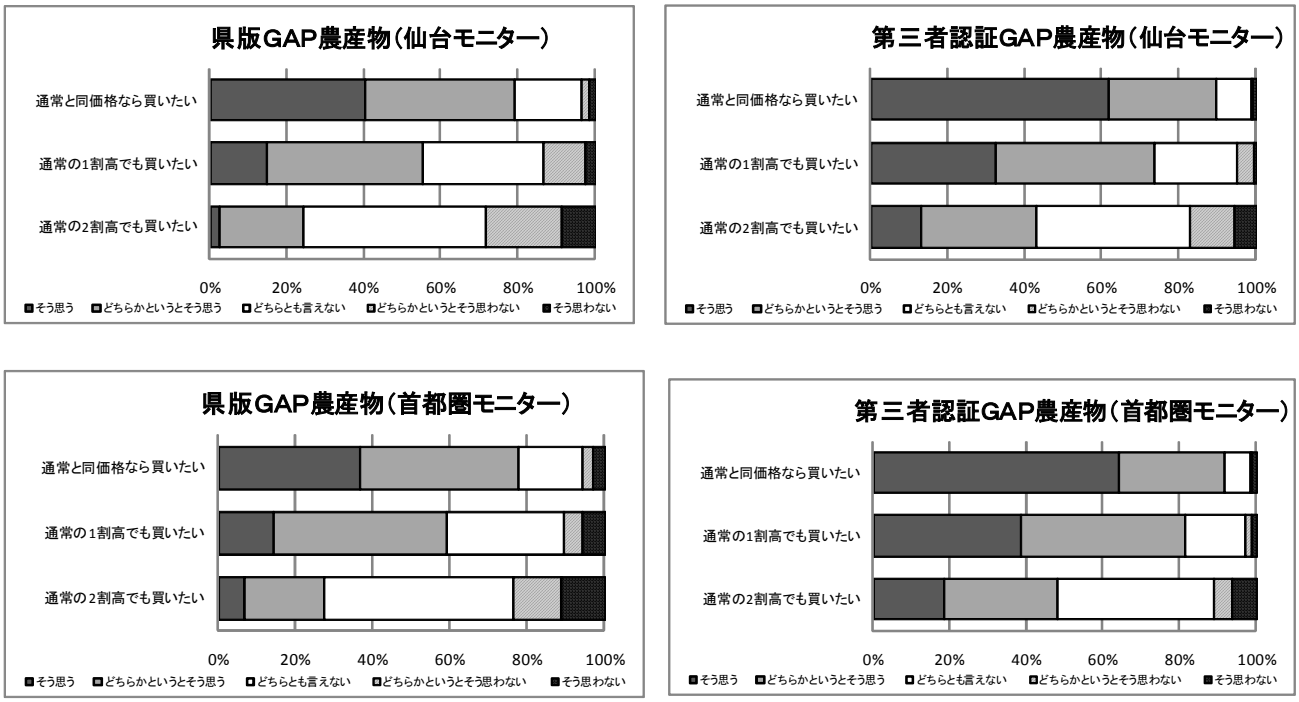

図１　ＧＡＰ農産物の購入意向

３）発表論文等　なし